



# 神農祭

大阪市無形文化財指定

しん の う さい

**11月22・23日**

■同時開催

「船場博覧会」〈辰野平野町ギャラリー〉

**神農さん**

すくなひこなじんじゃ

**少彦名神社**

大阪市中央区道修町2丁目1番8号  
 TEL 06 (6231) 6958



**堺筋 道修町西**

大阪メトロ堺筋線北浜駅⑥番出口 徒歩約5分  
 大阪メトロ御堂筋線淀屋橋駅⑪番出口 徒歩約10分  
 京阪電車京阪本線北浜駅⑳番出口より徒歩約8分

※道修町通りは交通規制により、車両通行止めになります。(赤の区間)

※ご参拝には公共の交通機関をご利用下さい。

# 神農祭 少彦名神社

## 張子の虎（五葉笹）の由来

神農祭と言えば「張子の虎」。張子の虎がつけられた五葉笹は、神農祭を象徴するお守りです。なぜ虎なのかご存知ですか？

江戸時代末期の1822年、コレラが日本へ入り、大阪でも多くの死者を出しました。コレラは、病にかかると2～3日でコロリと死ぬから「三日コロリ」、あるいは虎と狼と一緒に襲ってきたような病の意味で「虎狼痢」とも言われました。

コレラの特効薬の無かった時代、道修町に集う薬種商が虎の頭骨などの和漢薬を配合して作ったのが「虎頭殺鬼雄黄圓」です。病名と薬名に「虎」の字が当てられていたことから、「張子の虎」がお守りとして、薬とともに人々に配られました。

明治時代に入り、薬の配布は廃止されましたが、張子の虎は家内安全無病息災のお守りとして、また神農祭のシンボルとして、今も受け継がれているのです。



## 張子の虎（神虎）について

虎は大阪張子の伝統を受け継ぐ工房が手作りで作成し、33工程の手間が掛かっています。

笹は生命力の象徴であり、丹波大江山にて栽培しており3年間の成長を待って当社の笹に使用しています。この笹は五葉笹（おかめ笹）と言い、一つの節から五枚の葉が生えております。葉が落ちない笹としても知られております。

どうぞ、大阪伝統の張子の虎をお求め頂きご家庭お会社の無病息災家内（社内）安全をお祈り下さい。



▲ 病気平癒大福虎 3,000円



▲ 開運金虎 3,800円



## 少彦名神社（神農さん）のはじまり

少彦名神社は、通称「神農さん」として親しまれています。「少彦名命」は古事記や日本書紀にも記される日本医薬の祖神、「神農炎帝」は中国の中国医薬の祖神です。

道修町は、豊臣秀吉の商業政策により薬種商が集められた薬問屋の町でした。江戸時代になり、中国やオランダから日本（長崎）に入った唐薬種や和薬種は、すべて道修町の株仲間「道修町薬種中買仲間」が吟味（適正検査）して全国へ売る特権を与えられました。

当時、人命に関わる薬の検査は困難なことでしたから、中国医薬の祖神の神農炎帝が仲間会所で祀られ、やがて和薬種の取扱いが増えると、日本医薬の祖神の「少彦名命」を京都の五条天神より招き、ともに祀られたのです。この仲間会所のあった場所が現在の少彦名神社で、少彦名神社の始まりです。

この神虎の他にも下記のような病気平癒大福虎や開運金虎、黄金の笹もございます。



▲ 黄金の笹 4,000円



▲ 神虎笹 3,000円  
(御神絵付 3,500円)

## ご祈祷について

神農祭期間中、病気平癒・厄除け・合格祈願等のご祈祷を受付けております。

● 祈祷料は1万円。受付にてお申し出下さい。